横手湯田Ⅵ遺跡

都市計画道路　横手鶴光路線　道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋市は古代よりの豊かな文化あふれる地であり、東日本でも優れた内容を示しています。今から2万8千年前の旧石器を始めとして、8件を数える国史跡の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの、近代化遺産など多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内のほぼ全域に残されています。古代の人々の暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具や、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

前橋市南部を東西に横断する北関東自動車道は、その建設に伴う発掘調査で多くの新しい遺跡が発見され、地域の歴史解明に重要な資料となりました。

本年度調査の横手湯田Ⅵ遺跡では、暑さと降水・湧水に悩まされつつ、平安時代の水田跡などを調査いたしました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました北関東自動車道対策室、県文化財保護課、県埋蔵文化財調査事業団、地元関係者、酷暑のなか調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成12年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　渡辺　勝利

例　　言

1．本報告書は、都市計画道路　横手鶴光路線　道路改良事業に伴う横手湯田Ⅵ遺跡発掘調査報告書である。
2．本遺跡の遺跡コードは11G39である。
3．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
4．発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所	群馬県前橋市鶴光路町89番地4他
発掘調査期間	平成11年5月28日～平成11年9月28日
整理・報告書作成期間	平成12年2月1日～平成12年3月24日
発掘・整理担当者	斉木一敏・山口宗男・吉沢　貴

5．本書の原稿執筆・編集は斉木・山口・吉沢が行った。
6．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
　石山日出男・大鳥きく江・品川成夫・須田隆治・鈴木民江・北爪雄作・高橋公代・多田啓子・中林美智子・長井武之・細野進太郎・堀込とよ江・松本美咲子・森出純子・山口純子・吉田淑子・渡辺永造

凡　　例

1．挿図中に使用した北は座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の1／2.5万地形図（前橋・高崎）及び1／2,500前橋市現形図を使用した。
3．各遺構及び遺構施設の略称は次のとおりである。
　溝址…W　　P…柱穴　　D…土坑
4．遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。
　遺構　全体図…1／160・1／200・1／250・1／330　　遺構図…1／40・1／80・1／160　　遺構断面図…1／40
　遺物　土器…2／3

目　次

序
例言・凡例
本　文
Ⅰ　調査に至る経緯　……1
Ⅱ　遺跡の位置と環境　……1
Ⅲ　調査の方法と経過　……2
Ⅳ　層　　序　……3
Ⅴ　遺跡の概要　……4
Ⅵ　ま と め　……10・11

表

Tab. 1　水田址計測表
2　畦畔計測表
3　C区柱穴群　柱穴計測表
4　土坑計測表
5　溝址計測表
6　出土遺物観察表

挿　図

Fig. 1　横手湯田Ⅵ遺跡位置図及び周辺遺跡図
2　基本土層図
3　柔軟模式図
4　C区柱穴群
5　横手湯田Ⅵ遺跡と周辺の地形
6　A区全体図
7　B区全体図
8　C区全体図
9　D区全体図
10　E区全体図
11　E区溝状遺構
12　D区足跡拡大図
13　A区遺構セクション図
14　B区遺構セクション図
15　C・D・E区遺構セクション図
16　C区畦畔、水口セクション図
17　C区柱穴群全体図及びセクション図
18　C区東側耕作痕
19　C区西側耕作痕
20　出土遺物実測図

写　真

1　A区全景
2　D区トレンチ調査
3　C区西半分と調査区周辺
4　C区東側水田址全景
5　C区西側水田址全景①
6　C区西側水田址全景②
7　C区西側畦畔4・7・8と交差点
8　C区西側畦畔11・12・13と交差点
9　C区西側水口5・6
10　B区西半分全景
11　D区足跡
12　D区足跡全景
13　E区溝状遺構セクション
14　C区東側耕作痕
15　C区西側耕作痕
16　出土遺物1
17　出土遺物2
18　出土遺物3

Ⅰ　調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査は、都市計画道路　横手鶴光路線　道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成11年５月から９月にかけて実施された。発掘調査に至る経緯は以下のとおりである。前橋市北関東自動車対策室と協議・調整を行い、４月27日、前橋市長　萩　原　弥惣治より前橋市教育委員会あてに本発掘調査の依頼がなされた。前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団はこれを受諾し、５月28日、両者の間で本発掘調査の委託契約を締結、６月４日、現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称『横手湯田Ⅵ遺跡』の『湯田』は旧地籍の小字名を採用し、本調査団が横手湯田Ⅴ遺跡まで調査していることから遺跡名に『Ⅵ』を付けた。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

本遺跡（１）が所在する前橋市鶴光路町89番地４他は、前橋市南部に位置している。市役所からは南南東の方角に約6.5kmのところにある。近くの主要幹線としては南北方向に前橋・玉村線が走り、東西方向に県道27号高崎・駒形線が走っている。また、すぐ南には北関東自動車道が建設されている。主要幹線沿いには工場、飲食店、会社等が建ち並び、南には団地があり、地域の市街化が進んでいる。地形的には、前橋台地上に立地し、本遺跡から約１km離れ北西から南東に流れる利根川とその支流の端気川に挟まれた田園地帯の中に位置する。付近の標高は約80m前後であり、北西から南東に緩やかな傾斜をしている。また、本遺跡周辺には、宮地中田遺跡(14)、米田遺跡(15)、川曲遺跡(16)、下佐鳥遺跡(17)、公田池尻遺跡(18)、西田遺跡（８）、西田Ⅱ～Ⅳ遺跡（９・10・11）、村中遺跡（７）、井戸南遺跡(13)、横手宮田遺跡(12)等があり、近接して横手湯田遺跡（２）、横手湯田Ⅱ～Ⅵ遺跡（３・４・５）、鶴光路練引遺跡（６）等がある。これらの遺跡からは本遺跡と同様にAs-B（1108年降下）軽石下水田址等の遺構が検出されている。

Fig. 1　横手湯田Ⅵ遺跡位置図及び周辺遺跡

Ⅲ　発掘調査の方法と経過

1　方　　法

委託された横手湯出Ⅵ遺跡の調査箇所は幅約1.3～8.3m、長さ約1kmに及ぶ道路改良部分で、総面積約2,857m²である。調査した順に、この調査対象地をA区、B区、C区、D区、E区と呼称した。調査箇所は用地買収の終わっている部分で、形状はすべて細長い長方形である。D区、E区については、細すぎるのでトレンチ調査となった。グリッドについては、5mピッチでグリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。その他、調査実施段階での方法は以下のとおりである。

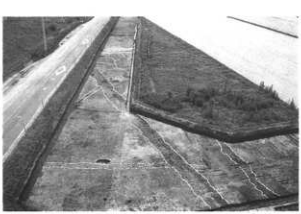
(1) 本遺跡は、西から東へX0、X1、X2…で表し、北から南へY0、Y1、Y2…と付番し、測量の基準点X0・Y0の国家座標は、第Ⅸ系のX＝＋37.000、Y＝－66.800である。

(2) 調査は、基本的に西側から表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘り下げ・遺構精査・図面作成等を行った。

(3) 図面作成については、原則として遺構全体図は縮尺1／40、断面は縮尺1／20で作成した。なお、トレンチ調査のD区・E区については、遺構全体図は縮尺1／100で行った。

2　調査経過

平成11年6月4日	A区一面目調査開始
7月6日	A区一面目調査終了
7日	A区二面目調査開始
8日	A区二面目調査完了、B区東側調査開始
21日	B区東側調査完了、B区西側調査開始
23日	B区西側調査完了、C区東側一面II調査開始
8月3日	C区東側一面目調査完了
4日	C区東側二面目トレンチ調査開始
	C区東側二面目調査完了
6日	現場夏休み（～22日）
23日	C区西側一面目調査開始
9月8日	D区トレンチ調査開始
10日	D区トレンチ調査完了、E区トレンチ調査
13日	C区西側一面目調査終了
14日	C区西側二面目調査開始
28日	C区西側二面目調査完了（現地調査終了）
平成12年2月1日	整理作業開始
3月24日	整理作業終了



1．A区全景（東から）

2．D区トレンチ調査（東から）

Ⅳ 層　　序

調査区は長さ約１kmにわたるので層序に若干の相違は見られるが、基本的には下記の通りになる。

１層	褐灰色粗砂層	耕作土
２層	黄褐色微砂層	洪水層
３層	明黄褐色微砂層	洪水層
４層	灰黄褐色微砂層	洪水層
５層	褐灰色細砂層	As-B混土層
６層	暗灰褐色粗砂層	As-B混土層
７層	黒褐色粗砂層	As-B混土層
８層	灰色粗砂層	天仁元（1108）年降下とされる浅間Ｂ軽石（As-B）純層
９層	黒灰褐色シルト層	平安時代遺構面
10層	褐灰色シルト層	６世紀初頭の降下とされる榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr - FA）に相当する層
11層	黒色シルト層	古墳時代遺構面 ４世紀中葉の降下とされる浅間Ｃ軽石（As-C）混土層

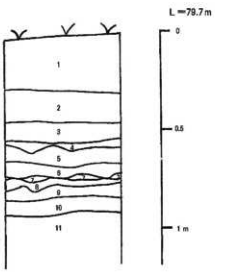


Fig. 2　基本土層図

３．Ｃ区西半分と調査区周辺

V　遺跡の概要

本遺跡は、おもに平安時代の水出址である。水出面は総数11枚の水田と20条の畦畔を検出し、総数549点の遺物が出土したがおもに土師器の破片である。一部、古墳時代の遺構面が確認できたが、遺構数基の検出にとどまった。

1　A区（Fig.6，写真1）

（調査面積）約1,039㎡

（概　　要）現耕作土から約30cmほど掘り下げるとAs-B軽石純層またはAs-B軽石混土層が調査区の大部分より検出され、その下から平安時代の遺構面が確認された。しかし、その後の耕作や上地改良等で遺構面が壊されている部分があった。よって、As-B軽石降下以前と思われる遺構は溝址が1条、部分的に壊されている畦畔3条、道路状遺構2条、As-B降下以降と思われる溝址5条、土坑4基の検出にとどまった。更に約20cmほど掘り下げると6世紀初頭の二ツ岳降下火山灰（Hr－FA）相当層の下から古墳時代の遺構面が確認された。溝状遺構1条の検出にとどまった。

（出土遺物）平安時代土師器片191点、須恵器片6点、古墳時代前期土師器片128点、瓦片1点、その他26点、計352点である。このうち、平安時代土師器2点を図示した。

2　B区（Fig.7，写真10）

（調査面積）約352㎡

（概　　要）現耕作土より約50cmほど掘り下げると、平安時代の遺構面が確認された。昔より周囲の土地に比べ高かったせいか、土地改良の際削平されており、As-B軽石純層やAs-B混土層も飛ばされていた。よって、現耕作土直下から平安時代の遺構面が確認され、As-B降下以降と思われる遺構の溝址6条、土坑6基が検出された。

（出土遺物）平安時代土師器片117点、須恵器片9点、古墳時代前期土師器片12点、灰釉陶器片1点、その他16点、計155点である。

3　C区（Fig.8・17～19，写真3～9・14～15）

（調査面積）約673㎡

（概　　要）現耕作土より約50cm掘り下げると、As-B軽石純層の下から平安時代の遺構面が検出された。厚いところではAs-B軽石純層が約6cm堆積しており遺構の残りがよかった。As-B降下以前の遺構として平安時代の畦畔が16条、水口が6箇所、耕作痕が検出され、As-B降下以降の中世の掘立柱建物の柱穴になると思われる柱穴が40基、溝址が2条、土坑1基が検出された。更に、約10cmほど掘り下げると古墳時代の遺構面となり、Hr－FAで埋まった溝址が1条だけ検出された。

（出土遺物）平安時代土師器片28点、その他1点、計29点である。このうち、平安時代土師器1点を図示した。

4　D区（Fig.9・12，写真2・11・12）

（調査面積）約515㎡

（概　　要）調査区の幅が狭いためトレンチ調査となった。土地改良以前まで使われていたと思われる溝址が3条、中世利根川流路変更の際の洪水層で埋まっていると思われる溝址を2条検出した。現耕作土より約50cm下にAs-B軽石純層があり、その下の平安時代の遺構面から当時の人の田の作業の一連の動きを思わせる足跡遺構を検出した。更に、Hr－FA相当層の下から古墳時代の遺構面を確認したが遺構の検出には至らなかった。

（出土遺物）平安時代土師器片9点、その他20点、計29点である。

5　E区（Fig.10・11，写真13）

（調査面積）約278㎡

（概　　要）この調査区も幅が狭いためトレンチ調査となった。現耕作土から約30cm下に江戸時代の浅間山の噴火（天明3年：1783年）に伴う軽石（As-A軽石）を埋め込んだ溝状遺構が検出された。また、約70cm下からはAs-B軽石純層が検出され、平安時代の遺構面から畦畔1条が確認された。平安時代の遺構面から約10cm下がったところで古墳時代と思われる遺構面を確認したが遺構の検出には至らなかった。

（出土遺物）平安時代土師器破片1点、須恵器片1点、計2点である。

Tab. 1　水田址計測表

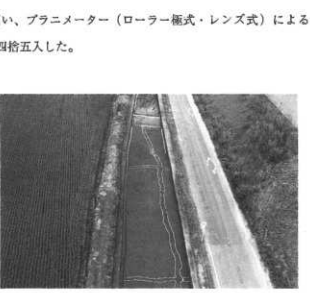
番号	調査区	面　積	東西	南北	標　高　m				形状	水　口
		m²	m	m	NW	NE	SW	SE		
1	C区	(12.64)	4.16	(4.08)	—	—	78.88	78.86	—	
2	C区	(13.54)	4.06	(4.12)	—	—	78.90	78.89	—	
3	C区	(16.95)	7.06	(4.12)	—	—	78.92	78.95	—	
4	C区	(45.42)	14.68	(4.72)	—	—	79.01	79.20	—	
5	C区	(31.23)	15.00	(3.39)	79.02	79.01	—	—	—	
6	C区	(93.63)	19.85	(4.85)	—	—	79.06	79.05	—	
7	C区	(22.20)	20.32	(1.72)	79.03	79.03	79.04	79.05	—	W＝1
8	C区	(33.16)	7.62	(4.68)	—	—	79.08	79.09	—	W・S＝1
9	C区	(7.68)	6.90	(1.72)	79.08	79.07	—	—	—	W・E＝1
10	C区	(26.05)	8.16	(3.80)	—	—	79.10	79.09	—	E・S＝1
11	C区	(17.97)	7.30	(3.00)	79.07	79.06	—	—	—	E・N＝1

注）表の記載は以下の基準で行った。

①水田址面積の算出については1／40の縮尺の図面を用い、プラニメーター（ローラー極式・レンズ式）による3回計測平均値を使用した。なお、小数点以下3桁は四捨五入した。

②確認値は（　）で示した。

4．C区東側水田址全景（西から）



5．C区西側水田址全景①（西から）

6．C区西側水田址全景図②（西から）

7．C区西側畦畔4．7．8と交差点（北から）

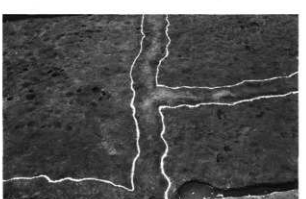
Tab. 2　畦畔計測表

番号	調査区	方　位	上幅	下幅	高さ	方向	備　考
1	A区	N－ 2° －E	48	66	5	南北	途中不明
2	A区	N－72° －W	45	68	4	東西	途中不明
3	A区	N－ 3° －W	38	70	3	南北	途中不明
4	C区	N－87° －E	40	66	7	東西	途中不明
5	C区	N－ 5° －E	46	70	2	南北	途中不明
6	C区	N－ 7° －W	36	54	3	南北	途中不明
7	C区	N－17° －E	28	50	6	南北	途中不明
8	C区	－	66	85	7	南北	短いため方位は計測できず。
9	C区	N－85° －E	30	44	3	東西	途中不明
10	C区	N－20° －E	－	50	1	南北	途中不明
11	C区	N－85° －E	34	60	4	東西	
12	C区	N－ 3° －E	40	60	7	南北	
13	C区	N－75° －E	34	64	6	東西	
14	C区	N－81° －E	42	58	5	南北	途中不明
15	C区	N－13° －W	54	68	8	東西	
16	C区	N－ 3° －E	38	58	4	南北	
17	C区	N－ 5° －E	50	74	6	南北	
18	C区	N－ 5° －W	36	54	4	南北	
19	C区	N－80° －E	34	54	7	東西	
20	E区	N－10° －E	－	70	9	南北	

注）表の記載は以下の規準で行った。

①各項目は1／40の図面を用い、計測した。

②上幅、下幅、高さについては最高値を計測した。



8．C区西側畦畔11.12.13と交差点（北から）

9．C区西側水口5.6（東から）

Tab. 3　C区柱穴群　柱穴計測表

遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	遺構名	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状
P－1	9.5	9.5	17	正方形	P－21	17	14	14	楕円形
P－2	27	28	30	正方形	P－22	25	22	22	円　形
P－3	31	30	32	正方形	P－23	18	12	15	楕円形
P－4	36	32	25	円　形	P－24	25	25	18	正方形
P－5	27	27	35	正方形	P－25	11	9	17	円　形
P－6	29	29	44	正方形	P－26	29	29	34	円　形
P－7	29	28	13	円　形	P－27	24	20	23	円　形
P－8	26	26	42	正方形	P－28	26	25	22.5	正方形
P－9	36	33	39	円　形	P－29	27	23	21.5	不整形
P－10	23	22	17.5	正方形	P－30	32	25	14	楕円形
P－11	29	29	37.5	正方形	P－31	25	20	25	楕円形
P－12	24	29	27	長方形	P－32	27	26	19.5	円　形
P－13	24	25	27	正方形	P－33	25	24	28	円　形
P－14	(26)	(6)	17	——	P－34	11	11	16.5	円　形
P－15	20	13	15	長方形	P－35	29	27	10.5	円　形
P－16	44	(24)	19	楕円形	P－36	14	12	16.5	円　形
P－17	18	18	19	正方形	P－37	16.5	16	7.5	円　形
P－18	48	49	17	正方形	P－38	20	17	8	楕円形
P－19	23	22	21	正方形	P－39	——	——	25	——
P－20	29	24	29	楕円形	P－40	——	——	22	——

注)（　）は確認値、—— は不明を示す。

Tab. 4　土坑計測表

調査区	遺構名	長径	短軸	深さ	形状	備考		時期
		cm	cm	cm		埋土	遺物	
A区	D－1	78	62	25	楕円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
A区	D－2	140	98	54	隅丸長方形	As-B混土	土師器片1	As-B降下以降
A区	D－3	118	73	42	楕円形	As-B混土	土師器片1	As-B降下以降
A区	D－4	76	68	42	円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
B区	D－1	151	95	11	正方形	As-B混土	なし	As-B降下以降
B区	D－2	36	34	8	円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
B区	D－3	52	41	14	楕円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
B区	D－4	35	35	6	円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
B区	D－5	51	46	12	円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
B区	D－6	25	16	6	(円形)	As-B混土	なし	As-B降下以降
C区	D－1	95	75	19	隅丸正方形	As-B混土	なし	As-B降下以降

10. B区西半分全景（東から）

11. D区足跡（西から）

12. D区足跡全景（西から）

13. E区溝状遺構セクション（南から）

Tab. 5　溝址計測表

調査区	遺構名	長さ	深さ	上幅（cm）		方位	形状	備考		時期
		m	cm	最大	最小			埋土	遺物	
A区	W－1	6.60	62	354	412	N－13°－W	すり鉢状	新しい土	土師器片4他	土地改良以前
A区	W－2	6.74	32	142	96	N－8°－W	U字形	黒色土	土師器片70他	As-B降下以前
A区	W－3	6.76	8	64	44	N－17°－W	楕円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
A区	W－4	7.04	8	88	49	N－23°－W	楕円形	As-B混土	土師器片4他	As-B降下以降
A区	W－5	6.28	31	124	98	N－24°－W	すり鉢状	新しい土	土師器片2他	土地改良以前
A区	W－6	5.36	10	100	88	N－12°－W	楕円形	As-B混土	土師器片4他	As-B降下以降
B区	W－1	3.80	12	44	36	N－7°－W	楕円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
B区	W－2	7.30	16	59	45	N－10°－W	楕円形	As-B混土	灰釉陶器片1他	As-B降下以降
B区	W－3	5.46	13	180	170	N－0°	楕円形	新しい土	土師器片9他	土地改良以前
B区	W－4	5.55	13	200	173	N－0°	楕円形	新しい土	なし	土地改良以前
B区	W－5	5.28	10	256	208	N－0°	楕円形	新しい土	なし	土地改良以前
B区	W－6	4.62	22	77	62	N－30°－W	楕円形	As-B混土	土師器片1他	As-B降下以降
B区	W－7	2.26	8	25	22	N－47°－W	楕円形	As-B混土	土師器片1他	As-B降下以降
B区	W－8	4.08	13	150	66	N－16°－E	楕円形	As-B混土	土師器片4他	As-B降下以降
B区	W－9	1.94	15	79	57	N－50°－W	楕円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
C区	W－1	4.38	5	22	10	N－0°	楕円形	As-B混土	なし	As-B降下以降
C区	W－2	5.53	64	150	130	N－11°－E	すり鉢状	As-B混土	土師器片1	As-B降下以降
C区	W－3	5.06	25	123	90	N－24°－W	楕円形	IIr-FA	土師器片2	古墳時代後期
D区	W－1	—	—	1740	1530	N－12°－W	——	洪水層	なし	中世、利根川流路変更以前
D区	W－2	——	——	470	465	N－8°－W	——	洪水層	なし	中世、利根川流路変更以前
D区	W－3	——	66	1800	1080	N－24°－W	楕円形	新しい土	なし	土地改良以前
D区	W－4	——	32	120	120	N－11°－W	楕円形	新しい土	なし	土地改良以前
D区	W－5	——	46	735	685	N－36°－W	楕円形	新しい土	なし	土地改良以前

注）—— は、トレンチ調査のため、計測しなかったり、できなかったりした溝址。

Ⅵ　まとめ

本遺跡では近世の遺構面、平安時代の遺構面、古墳時代の遺構面が確認された。しかし、調査区の幅が狭いため遺構の部分部分の検出にとどまることが多かった。おもな遺構の検出された近世と平安時代の遺構について考察したい。

1　本遺跡の水田址と条里制との関わりについて

主にC区より1108（天仁元）年の浅間山噴火に伴うAs-B軽石に埋没した平安時代の水田址遺構が確認され、11枚の水田址と16条の畦畔、耕作痕が2ヶ所検出された。

まず、農具によるものと考えられる半円形の耕作痕が2ヶ所で検出された。東西方向にある程度規則的に並んでいる。1つの大きさは長軸約13cm、短軸約10cm、深さ約5cmである。畑土は水田面の直上に青色がかったAs-Bの灰が薄くあり、その上にAs-Bの純層、そしてその上にAs-B混土がある。このことからAs-B降下直前に耕作されたものと考えられる。また、As-B軽石が降下した時期は稲の開花時期と考えられていることや耕作痕付近からは畦畔が検出されないことから、当時、水田として機能していなかったか、休耕田となっていた可能性があるのではないかと考えられる。

次に、本遺跡の水田址と条里制について考えてみたい。「条里制」とは飛鳥・奈良時代以降推進された律令制度に基づく土地制度である。その基本的な土地区割り方法は1町（約109m）方格の面積（1坪）を基準にし南北方向の列6町を1里と呼ぶ。多くの場合、北から南へ1条、2条…、西から東へ1里、2里…と付けられ、一番北西は「1条1里」というように付けられる。そして、1坪の境として大畦畔が使われており、使用目的から坪境畦畔と呼ばれている。As-B軽石下の水田址では、特に坪境畦畔とその交点（坪交点・条里交点）の検出が条里水田の指標とされる。東西約100mの調査区の中で大畦畔が検出されないことや水田の東西幅が20.32m、19.85mがあるものの、いくつかの水田の東西幅を組み合わせて考えても規則性が見つからず長地型、半折型の類型の東西幅になる可能性が少ないこと、本調査区に近接する横手湯田Ⅱ遺跡や横手湯田Ⅲ遺跡や鵜光路練引遺跡からAs-B下水田址が検出されているものの条里制との強い関連が確認されていないこと等から、平安時代末期の本遺跡の水田址は関連付けるものが薄くなってきていると考える。ただ、検出された畦畔のほとんどが東西、南北に走っていることや直交しているものがあること、「群馬県史 通史2」の付図1　群馬・那波郡小字名図を見ると亀里村では霜田、前田、歴田、石田、西田川、東田川、鵜光路村では前田、伊勢田、西田という水田に関する地名が多いことから少なからず条里制の影響を受けていると感じられる。

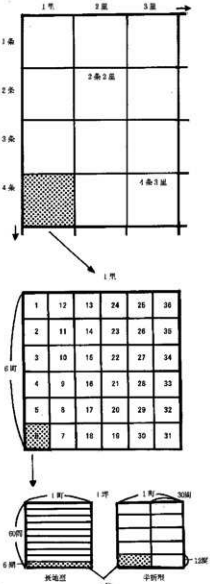


Fig. 3　条里模式図

2　溝状遺構について

E区より1783年（天明3年）の浅間山噴火に伴うAs-A軽石の充填した溝状遺構が南北の方向で計10条並んで検出された。東村町の小泉大塚越遺跡や近接する横手湯田遺跡からも検出されている遺構である。As-A軽石で埋没した農地を復旧するために、As-A軽石を溝や土坑に埋め込んだと考えられているようである。

3　柱穴群と掘立柱建物の可能性について

C区より40基の柱穴がまとまって検出された。調査区の幅が狭く掘立柱建物になると確信を持つまでには至らなかったが、方位と柱穴の間隔等から3つの掘立柱建物の一部の可能性を考えた。

●P－5・10・13はN－88°－Wでほぼ正方位に並び、それぞれの間隔はどちらも約150cmである。よって、掘立柱建物の一部分をなす可能性があるだろう。

●P－4・9・12はN－89°－W でほぼ正方位に並び、それぞれの間隔はどちらも約160cmである。よって、掘立柱建物の一部分をなす可能性があるだろう。

●P－2・3とP－15・11の方位はN－5°－EとN－0°、それぞれの間隔は約160mである。P－3・8・11はN－89°－Wでほぼ正方位に並んでいる。よって、P－2・3・8・11・15は掘立柱建物の一部分の可能性があるだろう。

また、すべての柱穴の埋土は黄色粘土ブロックを含むAs-B混土で同じ土層であることからAs-B降下以降の遺構であると考えられる。

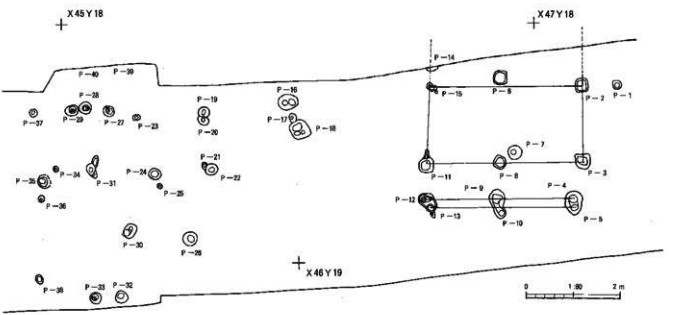


Fig. 4　C区柱穴群

参考文献

『群馬県史』　通史編　2

『水田の考古学』　工楽　善通　東京大学出版

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1996　『西田遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997　『宮地中田遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997　『稲荷遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997　『鵜光路練引遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998　『川曲黒沙門前遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998　『横手湯田Ⅱ遺跡　西田Ⅱ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998　『横手湯田Ⅲ遺跡　惣丸仲田Ⅱ遺跡　西善尺司Ⅱ遺跡　下増田越渡Ⅲ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998　『横手湯田Ⅳ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998　『西田Ⅳ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999　『西田Ⅲ遺跡』

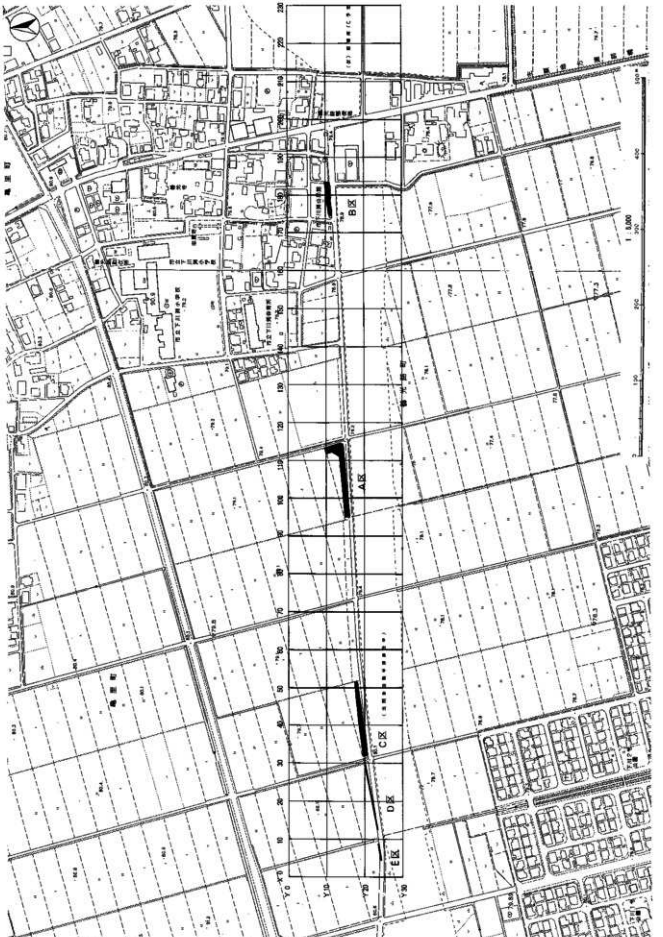


Fig. 5　横手湯田Ⅵ遺跡と周辺の地形

Fig. 6 A区全体図

Fig. 7 B区全体図

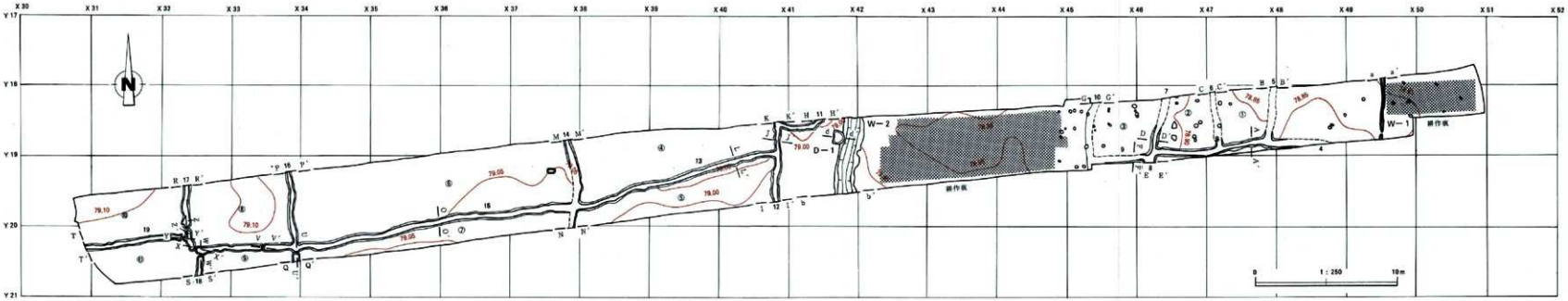


Fig. 8　C区全体図

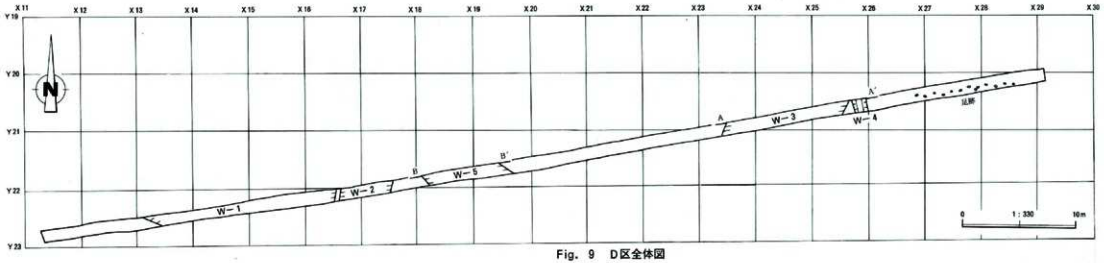
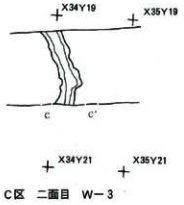


Fig. 9　D区全体図



C区　二面目　W−3

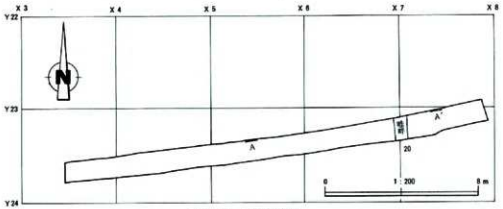


Fig. 10　E区全体図

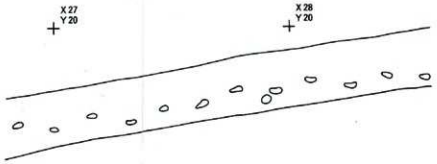
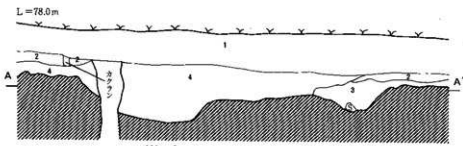


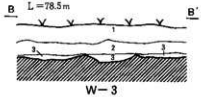
Fig. 12　D区足跡拡大図

Fig. 11　溝状遺構図

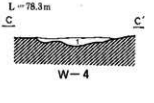
A区



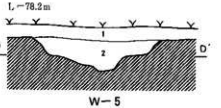
W－1・2号溝址
1　黒褐色粘砂層　締まり○　粘性×　耕作土
2　黄褐色粘砂層　締まり△　粘性×　As-H混土層
3　黒色腐植層　　締まり○　粘性△　W　2号遺址堆土
4　黒褐色粘砂層　締まり△　粘性×　新しい上。W－1号遺址遺土



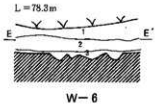
W　3号遺址
1　黒褐色粘砂層　締まり○　粘性×　耕作土
2　黄褐色粘砂層　締まり△　粘性×　As-B 混土層
3　暗灰色粘砂層　締まり△　粘性×　As-B 純層



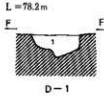
W－4号遺址
1　黒褐色粘砂層　締まり○　粘性×　As-H 混土層



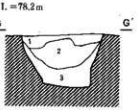
W－5号溝址
1　黒褐色粘砂層　締まり○　粘性×　耕作土
2　黒灰色粘砂層　締まり△　粘性×　新しい土



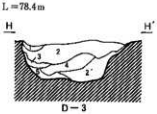
W－6号遺址
1　黒褐色粘砂層　締まり○　粘性×　耕作土
2　黄褐色粘砂層　締まり△　粘性×　As-B 混土層
3　黒褐色粘砂層　締まり○　粘性×　上部風化上。下部川砂
黒色土ブロック、黒褐色土ブロック混



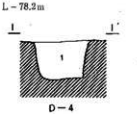
D－1号土坑
1　明灰色粘砂層　締まり○　粘性×　As-H 混土層　黒褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混



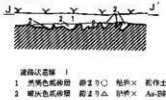
D－2号土坑
1　黒褐色粘砂層　締まり△　粘性×
2　明灰色シルト層　締まり○　粘性○　As-B 混土層　黒色シルト質ブロックを含む。
3　黒褐色粘砂層　締まり△　粘性○　As-H 混土層



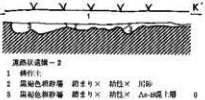
D－3号土坑
1　灰色粘砂層　　締まり○　粘性×　As-B混土層
2　粘質シルト層　締まり○　粘性×　As-B混土層　黒色粘質土ブロックを含む。
2′　2層よりAs-Bが多い。
3　明灰色粘砂層　締まり×　粘性×　As-B混土層
4　暗褐色粘砂層　締まり×　粘性△　As-B混土層
5　黒褐色粘砂層　締まり△　粘性○　As-B混土層　黒色土ブロック、褐色粘質土ブロックを含む。



D－4号土坑
1　褐色シルト層　締まり○　粘性×　As-B 混土層　黒色シルト質ブロックを含む。



溝跡以遺構　1
1　黒褐色粘砂層　締まり○　粘性×　耕作土
2　明灰色粘砂層　締まり△　粘性×　As-B純層



溝跡以遺構－2
1　耕作土
2　黒褐色粘砂層　締まり×　粘性×　川砂
3　黒褐色粘砂層　締まり×　粘性×　As-B混土層

0　1:40　1m

Fig. 13　A区遺構セクション図

B区

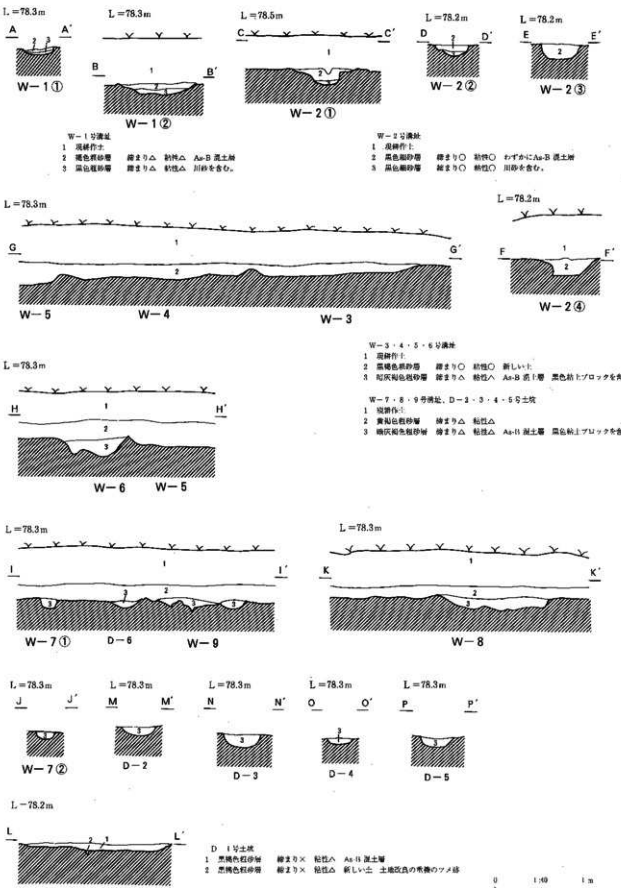


Fig. 14　B区遺構セクション図

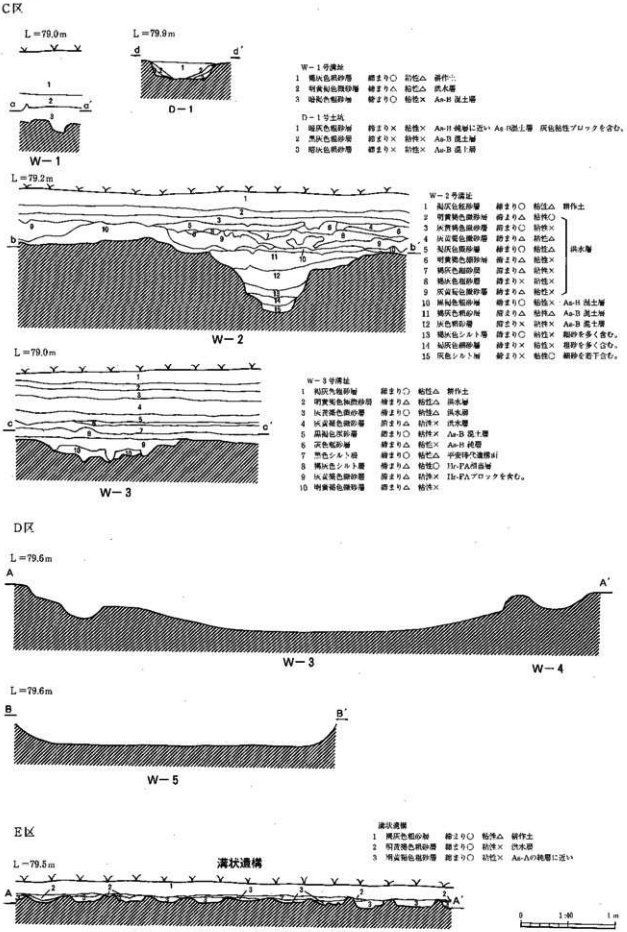


Fig. 15 C・D・E区セクション図

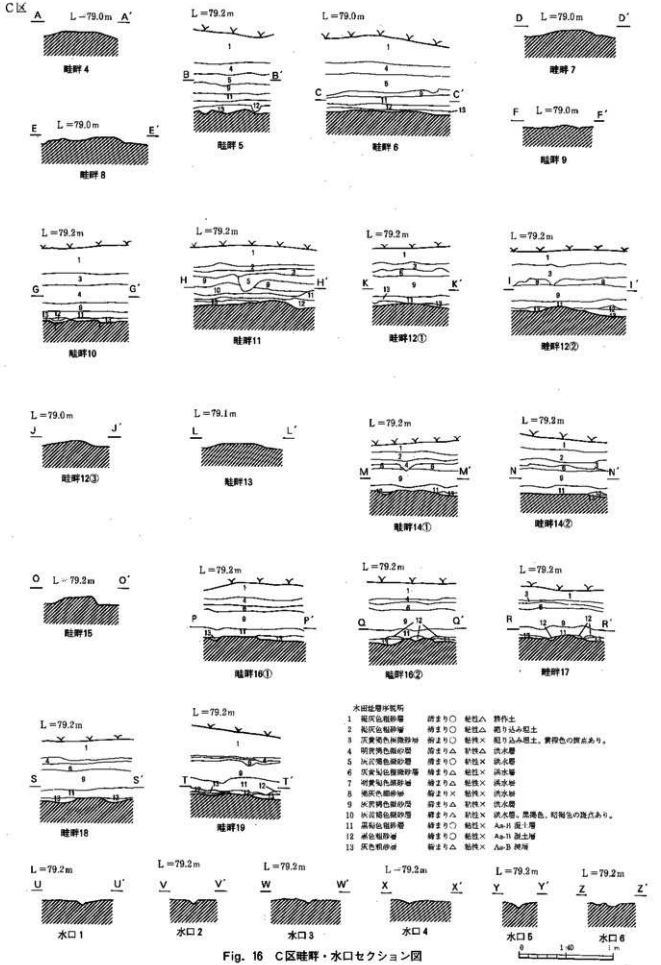


Fig. 16 C区畦畔・水口セクション図

Fig. 17 C区柱穴群全体図及びエレベーション図

Fig. 18　C区東側耕作痕

14. C区東側耕作痕

15. C区西側耕作痕

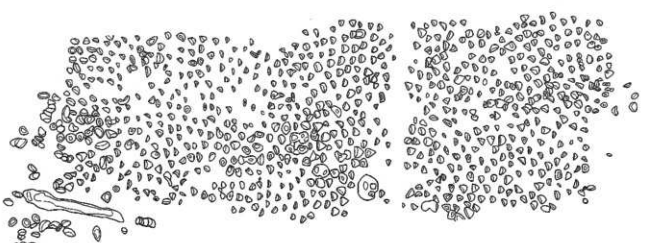
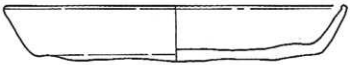
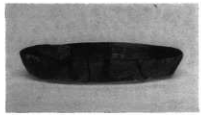


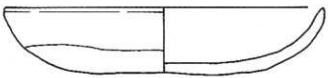
Fig. 19　C区西側耕作痕



出土遺物 1



16. 出土遺物 1



出土遺物 2

17. 出土遺物 2

出土遺物 3

18. 出土遺物 3

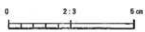


Fig. 20　出土遺物実測図

Tab. 6　出土遺物観察表

番号	地区・層位	器　種	法　量	形態及び成型・調整技法	色　調	備　考
1	A区W－2 堀土	土師器杯	口12.8 高2.6 底－	底部と体部との境は不明瞭で内湾しながら立ち上がり端部は薄く丸くおさめる。 口・体 i　ナデ　底 i　ナデ o　ナデ　o　ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR6/4	
2	A区W－2 堀土	土師器杯	口(13.6) 高2.2 底(11.2)	底部は平低で屈曲して外上方にのび、端部は丸く内側にわずかに肥厚しておさめる。 口・体 i　ナデ　底 i　ナデ o　ナデ　o　ヘラケズリ	にぶい橙 5YR7/4	
3	C区W－3 堀土	土師器杯	口(11.8) 高［3.6］ 底－	体部は内湾し口縁部は「内斜口縁」を呈する。 口 i　ヨコナデ　体 i　ナデ→斜位ヘラミガキ　底－ o　ヨコナデ　o　ナデ→ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR5/8	

注1）（　）は復元値、［　］は現存値を示す。
注2）ｉは内面、ｏは外面を表わす。

抄　　録

フリガナ	ヨコテユデンロクイセキ
書名	横手湯田Ⅵ遺跡
副書名	都市計画道路　横手鵜光路線　道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊木　一敏　・　山口　宗男　・　青沢　貴
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0007　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	西暦２０００年３月24日

フリガナ 所収遺物名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	位置 北緯	位置 東経	調査期間	調査面積	調査原因
ヨコテユデンロクイセキ 横手湯田Ⅵ遺跡	マエバシシツルコオウジマチ 前橋市鵜光路町	10201	11G39	36°19′50″	139°05′56″	19990528 19990928	2,857㎡	都市計画道路 横手鵜光路線 道路改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
横手湯田Ⅵ遺跡	水田址	平安時代	水田址11枚　柱穴40基　土坑11基　溝址23条　耕作痕	土師器	なし

横手湯田Ⅵ遺跡

２０００年３月２０日　印刷
２０００年３月２４日　発行
編集・発行　前橋埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664－４
ＴＥＬ　027－231－9531
印　　刷　松本印刷工業株式会社
前橋市紅雲町一丁目12－３